



新時代に思う



同窓会会長 長谷川 孝

五月一日に新元号「令和」が行われ、新しい時代が始まりました。出典は日本最古の歌集「万葉集」からであり、「人々が心寄せ合い美しい時代を築く」ということでしたが、本当にそのような時代になってほしいと心から願っています。

その新天皇の即位後の五月十五日に、令和二年の「歌会始」のお題が発表されました。それは「望」でした。このお題には、新天皇のお心が表れているような気がします。実は、十数年前に高校の父代会新年会において、私が挨拶した中で、母が毎年「歌会始」に応募していることを話したことがありました。その時に、ご臨席なさっていた木村理事長先生から、國學院大學栃木短期大学の岡野弘彦学長が、天皇陛下（現在は上皇

様）をはじめ皇室の皆様の和歌のご指導をなさっていたことをお聞きし、とても嬉しくなりました。そのような立派な先生が、同じ学園にいらして、学生を指導して下さっていることに、同窓生として誇りを感じたものです。

ところで、現在、中高一貫コースで学んだ同窓生など海外に在住する方が多くなっています。母校には、国際ロータリークラブの青少年交換プログラムを通して海外からの留学生を受け入れていただき感謝しております。今年度はタイ王国からの女子生徒を一年生に、フランスからの女子生徒を二年生に、一年間在籍させて頂いたいただきます。逆に今まで母校からも同プログラムで海外に留学している生徒さんも数多くいます。若い人たちが、海外研修や留学を体験し、国際交流を通して相互理解を図り、平和な時代を築いていくサポートを同窓会のネットワークを使って、これからも支援していきたいと思えます。

先日、銀行の窓口で行員の方

発行者
國學院大學
栃木高等学校
同窓会
(〒328-8588)
栃木市平井町608番地
電話 0282-22-5511

第42号

ら「同窓会長さんですね」と声をかけられました。私は「はい」と答え、ここでも卒業生が頑張っていることに嬉しさを感じ、思わず「学校の文化祭にぜひ来てみて下さい」と声をかけました。現在多くの同窓生が社会で活躍しています。その様子や学校の活動を伝えることができるのが、会報「むらさき」です。どうぞ皆さんの声をお寄せ下さい。また、二年後に迎える同窓会設立六十周年の事業を行うにあたり多くの同窓生に参加をしていただき、創り上げたいと思えますので、皆様のご支援、ご協力よろしくお願ひします。

不易流行

学校長 青木 一男



今、日本は少子高齢化、グローバル化に伴う国際競争の激化、人工知能による産業構造の変化な

ど、様々な問題を抱えています。しかし、そうした中、今年ラグビーワールドカップの日本開催、来年二〇二〇年には、東京オリンピック開催を控え、明るさや活気が見え始めました。その二つの世界的イベントですが、ワールドカップには、卒業生である田村優選手が四年前の大会に続いて出場予定、加えて在校生の松田凜日さんが、現在、七人制女子ラグビーの日本代表選手として活躍しており、東京オリンピック出場が有力と言われています。本校は令和元年となった今年、創立六十周年を迎えました。そうした節目となる年に卒業生の世界的な舞台での活躍は、とても喜ばしいことであり、誇りに思うことであります。

さて、今年度、四九九名の新入生が入学しました。その新入生が、これから三年間の高校生活の抱負を綴った『拓く』という文集がありますが、その中に、このような内容のものがありました。

「入学を決めた一つの理由は、学校見学の際に先輩方がとても輝いて見えたことです。印象に残っているのは、先輩方が駐車場に誘導したり、学校の案内を率先して行っている献身的な姿でした。また、先輩方の挨拶は、自分の親も本当に感心していて、自分もそうありたいと思いました。これからの時代、科学技術の進歩により、どれほど便利な時代になろうとも、やはり人間と人間のコミュニケーションは絶対に大切なものであり続けると思っています。そのためにも必要になってくるものは挨拶です。自分自身しっかりと挨拶ができる人間になると共に、併せて思いやりの心も育てていきたいです」。

日本の教育もICT教育、グローバル人材の育成など、国を挙げての大きな変革があり、来年度には、大学入試も大きく変わります。思考力、判断力、表現力などの力が主に問われるようになります。本校でも、それに対応するための授業改革や探究型学習の推進などを行っています。しかし、作文にあったように、教育の形は変わろうとも、その根本に流れている大事なものは変わらないのです。本校生が、「たくましく、直ぐ、明るく、さわやかに」の校訓のもと、何事に対しても全力で取り組む姿勢や他者への思いやりの気持ち、互いに助け合う心、きちんと挨拶ができるというような人としての基本をまずは、しっかりと身に付けている、それこそが、國學院大學栃木高等学校の生徒であることの証であり、本校の誇りとすることのひとつなのです。

創立から今まで受け継がれてきた國學院栃木の教育を、これからも大切にしていきたい、六十年という節目を迎えるにあたり、同窓生の皆様さらには誇りに思える学校創りに全力を尽くしていく覚悟です。これからもどうか、ご支援・ご協力の程、よろしくお願ひいたします。

平成30年度同窓会一般会計収支決算

Table with 5 columns: 項目, 決算額, 予算額, 比較増△減額, 備考. Section: 収入の部 (Revenue Section).

Table with 5 columns: 項目, 決算額, 予算額, 比較増△減額, 備考. Section: 支出の部 (Expenditure Section).

総収入額 14,677,554
総支出額 11,472,170
差引残高 3,205,384

2019年度同窓会一般会計収支予算

Table with 5 columns: 項目, 予算額, 前年度予算額, 比較増△減額, 備考. Section: 収入の部 (Revenue Section).

Table with 5 columns: 項目, 予算額, 前年度予算額, 比較増△減額, 備考. Section: 支出の部 (Expenditure Section).

令和元年度 同窓会総会 (幹事会)

日時：令和元年六月九日(土) 午後二時～ 場所：高校第一会議室

横地事務局長の司会、増山副会長の開会の辞により始まり、長谷川会長、木村理事長、青木校長の挨拶と続き、出席者全員の前で、議事は、柏崎副会長より平成30年度の事業報告、海老沼会...

計より決算報告、加藤監査による会計監査報告があり、承認された。続いて、令和元年度の事業計画案、収支予算案が審議され、これらも全会一致で承認された。

続いて、今年度から委員会を設置する案について、会長より説明があり、企画・運営委員会(主に同窓会主催事業の企画運営)と広報・会報委員会(主に会報「むらさき」の編集発行)の設置が承認された。

その他、第二十七期生卒業三十年の集いの会について、今泉芳勇実行委員長より、十月十二日(土)の開催と進捗状況が伝えられ、会長からは、永吉奨学会の報告、野球部OB会長岩下浩之氏より、「もうひとつの甲子園」という、甲子園を目指すもレギュラーになれなかった三年生の引退試合を、六月十一日(火)小山市運動公園野球場で開催すると報告され、佐藤副会長の閉会の辞によって総会は滞りなく終了した。



第5号議案

令和元年度同窓会本部役員・事務局

- 役員
相談役 木村 好成 (理事長)
名誉会長 青木 一男 (校長)
顧問 飯村友季子 (教頭)
本部役員
会長 長谷川 孝 (9期)
副会長 増山 一夫 (5期) 佐藤 和男 (5期)
柏崎 和己 (7期) 荒川 浩幸 (21期)
会計 星野 充江 (15期) 北井 達也 (24期)
海老沼信子 (31期)
会計監査 加藤 春美 (7期) 山田 和美 (25期)
総務 山中日富美 (22期)
理事 吉田 和夫 (5期) 大竹 幾子 (5期)
神島 国治 (7期) 神島 馨 (9期)
福島 洋二 (15期) 福島 正浩 (16期)
片岡 弘美 (16期) 川島 正光 (17期)
高橋 俊一 (17期) 藪下 和弘 (17期)
若林 弘美 (17期) 渡邊 俊夫 (18期)
鎌倉 博幸 (19期) 保戸山陽一 (19期)
岩下 浩之 (21期) 齋藤 健 (21期)
増淵 宏和 (22期) 柳田 章芳 (23期)
飯沼 邦章 (24期) 中村 亜紀 (25期)
岡部 秀幸 (26期) 須田 尚男 (28期)
神山 拓之 (29期) 漆原 康史 (31期)
事務局
主任 横地 夏彦 (24期)
田原 千晶 (30期) 木村 圭佑 (41期)
戸張 真衣 (43期) 高山 洋太 (46期)
塩谷 隼冬 (50期)

第二十六期生 「卒業三十年 集いの会」

御礼 集いの会

実行委員長 角田 正展



平成三十年十月二十七日(土)栃木サンプラザにて第二十六期生「卒業三十年集いの会」

業三十年集いの会」を長谷川孝同窓会会長、青木一男校長や多くの来賓、恩師をお招きし開催致しました。

さて、本会運営にあたり、第二十五期生の先輩から引き継ぎを行い、約十ヶ月間実行委員会のメンバーや各クラス幹事、同窓会事務局の皆様などにご指導頂き、平成最後の集いの会を盛大に開催できたことを御礼申し上げます。

今現在、個人保護法等の関係で名簿集めなど大変苦労致しましたが、当日恩師、同級生の話や笑顔を見ると本会が大変有意義な事だと感じました。

改めまして、集いの会が盛況に行われたことに感謝申し上げ、母校同窓会、恩師、同級生の皆様におかれましては益々のご活躍をお祈り申し上げます。

また、平成から令和へと元号が変わり、我が母校、國學院大學栃木高等学校の益々のご発展とご繁栄をご祈念申し上げます。

次回、またの再会を楽しみにしております。



第十五期生

「還暦の集い」

報告

平成三十年十月二十日(土)にホテルサンルート栃木にて「第十五期生還暦の集い」を開催させていただきました。当日は一一〇名の同期生と来賓・恩師七名に出席していただき、会場内は四十数年前に戻ったように恩師を囲み旧友と語り、笑顔の絶えない時間が過ぎていきました。

還暦は節目でありセカンドステージの始まりでもあります。医療の進歩により平均寿命が延びた現在では、還暦を迎えたとはいえ、現役で活躍している仲間もたくさんいます。健康に留意しながら昭和、平成に続く新しい時代を生きていきたいと思えます。

國栃を卒業したのが昭和五十二年、それから四十有余年の星霜を経て開催した同窓会。同期の皆様それぞれがいろいろな人生を送ってきたことと思えます。楽しいことや辛いこと、大きな波や向かい風に立ち向かい、それを乗り越えてきた笑顔がとても素敵でした。第十五期生の更なる飛躍を願うものです。

結びに、本会の開催にあたりご



支援いただいた國學院大學栃木高等学校並びに同窓会に感謝を申し上げ、母校の更なるご発展をご祈念申し上げます。

平成三十年十二月
第十五期生幹事代表
福島 洋二

中高一貫 成人式

中学校十六期、高等学校五十五期生は今年、成人式を迎えました。その節目として私たち中高一貫コースは、平成三十年一月十三日(日)栃木グランドホテルにて、瀬賀正博先生、鰐坂和幸先生、小田智巳先生、津田恵先生をお招きして、卒業後初めての同窓会を開催しました。



当初は、同級生全員が多忙の中に身を置いていたこともあり、この同窓会への参加が難しい同級生も少なくはないだろう、と予想し



ていきましたが、実際に開催すると多くの同級生が参加してくれました。そして、先生方や同級生たちの楽しそうな様子に、私は心の中で感謝するとともに嬉しさを感じました。

このような楽しい会を、私たちが三十歳という節目に足を踏み入れたところに、再び開催できたらと考えています。その時も多くの友人たちが参加してくれたら嬉しいです。

中学校十六期・高校五十五期
網野 嵩之

第五回スキー部OB会総会

令和元年六月八日(土)、ホテルサンルート栃木に於いて、スキー部OB会総会並びにスキー部OBで

前同窓会会長中麿輝美さんの日光二荒山神社宮司就任並びに石川晴朗さんの瑞宝双光章受章のお祝いを行いました。

当日は来賓として、赤塚透先生、石塚透先生、中信先生、神原邦夫先生四名の先生方に御参加いただきました。

中麿さんは、日光二荒山神社にて長く権宮司を務められておりましたが昨年末に宮司に就任されました。

石川さんは一九八七年から保護司を務め、日光保護区保護司会に所属されております。長くの功績が認められ今回受賞されました。

また中麿さんは、スキー部を創設した功労者で、赤塚先生・石塚先生と共に学校に交渉してスキー部を創設しました。

会場内は二期〜二九期までのOBに参加していただきそれぞれ当時の話、受賞話等で大きく盛り上

がりました。

スキー部OB会活動としては、残念ながら現在スキー部は休部になっており、OB会の最大目的である現役支援ができませんが、総会、年に一回の野沢温泉スキー合宿、ゴルフコンペ等を実施して会員親睦を図っております。OBの皆様奮っての参加をお待ちしております。

スキー部OB会会長

十九期 保戸山陽一



【三十年会費納入者芳名一覽】 《平成三十年度分》 氏名上の数字は卒業期（ ）内は旧姓 敬称略

- 一万円
- 1 山口武子(渡辺)
- 17 光野幸子
- 二万円
- 2 小林富枝(仲江川)
- 3 三野由
- 5 吉田和夫
- 4 匿名
- 2 匿名
- 5 早乙女久夫
- 3 鈴木佳雄
- 5 長和由美子(柴田)
- 4 楠野祇晴
- 6 駒場カツ子(高橋)
- 5 松本悦夫
- 6 三森久子(鈴木)
- 8 大出勝美
- 8 生沼誠一
- 8 齊藤隆裕
- 8 佐藤康之
- 9 五十嵐敏夫
- 10 金山典子(木元)
- 9 高岩八重子(谷村)
- 11 江森喜代子(海老澤)
- 9 中田典子(野尻)
- 11 唐木田浩司
- 11 宇賀孝夫
- 12 小田垣みどり(寺内)
- 11 菅沼知子(野中)
- 13 小田垣みどり(寺内)
- 12 野中節男
- 15 赤羽根靖子(大塚)
- 15 駒場哲也
- 16 大阿久和美
- 15 石川富美子
- 16 吉見芳子(田村)
- 16 立石智子
- 17 高野美江子(谷中)
- 17 藤井昭広
- 18 大塚延江(落合)
- 18 大塚由紀子
- 18 小澤嘉尚
- 18 寺内紀男
- 18 小林久美子(武内)
- 18 山本好成
- 19 阿部久美子
- 20 加藤優
- 20 小湊充
- 22 田中利和
- 20 戸叶祐一
- 22 佐田友則
- 22 関口和枝(戸沢)
- 22 永倉正史
- 22 比護純子(関塚)
- 23 齊藤礼子
- 22 宮田泰夫
- 24 植木栄子
- 23 高橋淳
- 24 本田もとみ
- 24 山口淑子
- 24 山本賢
- 25 小西俊弘
- 25 岩崎統一
- 25 酒巻清美
- 25 大越義雄
- 25 津久井浩
- 25 内藤雅樹
- 25 野澤裕
- 25 竹部明子(渡辺)
- 25 廣瀬勝彦
- 25 藤原樹
- 25 松島久仁子(伏木)
- 25 中島正高
- 25 三崎理恵
- 25 松崎由美(河村)
- 25 村上和代

【甲子園後援会寄付者芳名一覽】 敬称略

- 48 坂入裕一
- 27 野口沙希

《30年会費納入のお願い》
卒業して30年を過ぎた同窓生の皆様に、「30年会費」のご協力をお願いいたします。今年度は、26期生以前の方に「案内致しております。既にお振り込み頂いた方には、用紙等は送付していませんが、行き違いの際は、「容赦いただき、お手数でもご連絡ください。よろしくお願ひ申し上げます。」

平成 30 年度 クラス会開催一覧



平成 30 年 5 月 4 日 (金・祝)
普 3 - 10 (16 期・S 53 卒)



平成 30 年 5 月 19 日(土)
普 2 - 5 (25 期・S 62 卒)



平成 30 年 6 月 2 日(土)
普 3 - 11 (24 期・S 61 卒)



平成 30 年 6 月 9 日(土)
普 3 - 12 (25 期・S 62 卒)



平成 30 年 11 月 3 日(土)
商 3 - 1 (25 期・S 62 卒)



平成 30 年 11 月 4 日(日)
商 3 - 3 (11 期・S 48 卒)



平成 30 年 12 月 8 日(土)
普 3 - 4 (26 期・S 63 卒)



平成 30 年 12 月 8 日(土)
普 3 - 8 (26 期・S 63 卒)



平成 31 年 1 月 12 日(土)
普 1 - 1 (26 期・S 63 卒)



平成 31 年 2 月 16 日(土)
普 3 - 2 (17 期・S 54 卒)

☆平成 30 年 4 月 30 日 (月・祝)
普 3 - 7 (25 期・S 62 卒)

☆平成 30 年 12 月 30 日(日)
国 3 - 3 (44 期・H 18 卒)

☆平成 31 年 3 月 2 日(土)
普 3 - 9 (20 期・S 57 卒)

☆平成 31 年 3 月 23 日(土)
普 2 - 6 (24 期・S 61 卒)



写真掲載 12 クラス (中高一貫 2 クラスを含む) ・
他 4 クラス、計 16 クラスに補助することが出来ま
した。(1 クラス 20,000 円)

お知らせ

- 16 期生還暦の会 令和元年 11 月 3 日(日) 正午 於：サンプラザ栃木
- 27 期生卒業 30 年集いの会 令和元年 10 月 12 日(土) 正午 於：サンプラザ栃木

◎クラス会は、1 年生から 3 年生まで、どのクラスも対象となりますので、是非お申し込みください。
◎クラス会・還暦の会は、いずれも所定の書類による事前申請が必要です。先ずはご連絡をください。
◎会報「むらさき」は、同窓生お一人に一通ずつお送りしております。重複して届くため一通で良い、又は送らなくても良い方は、ご連絡ください。「むらさき」は、ホームページからもご覧になれます。

電話：0282 - 22 - 5511 (学校代表) F A X：0282 - 22 - 2822
メール：yamanaka@kokugakuintoshigi.ac.jp 総務：山中



会員だより

このたび、石川晴朗さん(五期)が平成三十年十一月三日、皇居豊明殿において瑞宝双光章叙勲を受けられ、天皇陛下よりねぎらいのお言葉を賜った。また、田村優さん(四十五期)がラグビーワールドカップの日本代表選手に選ばれ、出場が決定した。石川さんには広報・会報委員がお話を伺い、田村さんには原稿をお寄せいただいた。

秋の叙勲 瑞宝双光章

五期生 石川 晴朗さん

石川さんは昭和六十二年より日光保護区保護司会に所属し三十三年間更生保護司として活動されました。

今回の叙勲は本校の同窓会としても大変名誉なことであり、でも本校同窓生に広くお知らせし皆様で称賛したいと思えます。先日、石川さんのお話を伺う機会を得ることができましたのでご紹介いたします。



今から五十数年前、石川さんは鬼怒川の実家を離れ、学校寮で高校生活を送っていました。当時の学校の雰囲気は、今とはずいぶんかけ離れたものでした。生意気盛りで、ワルが格好いとおつぱり、かなりわんぱくな生徒でした。周りに迷惑をかけては、石塚透先生や西村俊太郎先生に叱責を受けることを繰り返しました。先生方に根気よく指導して頂き、石川さんは石塚先生たちに巡り合ったことで、人として大切に扱ってもらっていたということに気づき、もしこの学校に進学していなければ、今の自分は無かったと述懐しておられました。

大学卒業後は地元へ帰り看板製作業に就きましたが、近所の中学生が煙草を吸い、たむろし、非行に走る姿を目の当たりにし、昔の自分の姿と重なって見えました。

その時、何とかしなければと思い、彼らの相談相手となり、家でアルバイトをさせました。やがて懸命に働いて、更生してゆく姿に喜びを感じるようになりました。そのような活動をしていくうちに、お寺のお上人様の目に留まりました。このことが更生保護司としての出発点になりました。当時の鬼怒川地域では、人手不足の旅館などがありませんでした、非行や罪を犯した者たちの社会復帰のために働く場を求めて奔走致しました。

非行に走る者や罪を働く者には、それぞれの事情があります。立ち直っていく過程も千差万別です。ひとりひとりに対しても心くばりが必要でした。人として大切にしたい、決して見捨ててはいけない、働くことの大切さを教えた、そういった想いで彼らの社会復帰をサポートし続けてきました。その結果が今回の叙勲を受けたこととなり、石川さんは、「まさか自分が…」と驚きました。先日高校スキーOB祝賀会で恩師の石塚先生にお会いして「よくやった」と喜んでいただきました。昨今、親子間の悲しい事件を耳にすることが多くなりました。「負うべき課題が沢山ありますが、叙勲を励みとして、これからも妻とともに尽力していきたい」と語ってくださいました。

「原点の教えを胸に」

四十五期生 田村 優



Bの繋がりが強いことです。私は明治大学、トップリーグ(NEC ↓キヤノン)とプレーしてきましたが、卒業してからも、たくさんの方がOB戦に集まる高校は、他には余りないようです。プレーしている時も卒業してからもずっと家族のようなチームです。

私は中学まではサッカー部に所属していましたが、高校からラグビーをやること決めて、未経験でしたが愛知県から國學院栃木高校に入学しました。もともと父と吉岡先生が知り合いだったこともあり、お世話になることを決めたのですが、今思い返せば、ラグビー人生を國府でスタートすることができて、本当に良かったと思います。

理由は三つあります。まずは吉岡先生という素晴らしい指導者に出会えたことです。吉岡先生には、一番大切な基本プレーを徹底的に指導していただきました。サッカーや野球とは違いラグビーは高校から始める選手が多く、私もその一人だったためです。また、ラグビー選手である前に高校生であるため、私生活の面でも厳しく接していただきました。二つ目はO



高校時代の田村選手(右)

三つ目はラグビーに対する取り組み方に、特別なこだわりを持つチームである、ということですが。私は今も強く感じています。どのレベルにおいても、取り組み方・心構えがしっかりとっていないラグビー選手は絶対に成功しないと思っています。また、吉岡先生

試合日程

- 9月20日 ロシア戦
(東京スタジアム・東京)
- 9月28日 アイルランド戦
(小笠山総合運動公園
エコパスタジアム・静岡)
- 10月5日 サモア戦
(豊田スタジアム・愛知)
- 10月13日 スコットランド戦
(横浜国際総合競技場・神奈川)

は、特に自主性を重視して指導していただきました。「やらされる」のではなく「やる」ということを高校の三年間で教え込まれました。大学、社会人、そして日本代表として世界で戦っていく上で、その考えがベースとなり、活かされています。

さて、今年9月に日本でワールドカップが開催されます。現在、私は日本代表スコッドに選出され、大会に向けて日々努力しています。毎試合良い準備ができれば、できないことはないと思っています。高校時代の教えを胸に、日本の司令塔として世界のチームと戦ってきます。応援よろしくお願ひします。

運動部

◆松田凜日(三年)・サクラセブンズへ

来年の東京五輪でメダル獲得を目指すラグビー女子7人制日本代表「サクラセブンズ」に、本校ラグビー部の松田凜日(B3年)が選ばれた。男子15人制の元日本代表でワールドカップ(W杯)を四度経験した努さん(49)を父も持ち、四月二十、二十一日に北九州で行われたワールドシリーズ(W S)第四戦では、父譲りの突破力を発揮し、早くも世界を驚かせている。東京五輪での活躍を期待せずにはいられない。



母校のようす

◆福田均先生ご退職

本校で四十三年間バレー部を指導した福田均先生が勇退された。監督は、通算八十回の全国大会出場、そのうち二回は全国制覇という金字塔を打ち立て、沢山の選手を育てた。県内最後の戦いとなる、十月二十七日(土)に行われた第七十一回全日本バレーボール高校選手権大会(春高バレー)の栃木県予選決勝では、スタンドを200人近くのOGが埋め尽くすほどであった。本校退職後は、敬愛大学バレーボール部の第二代会長に就任し、新たな挑戦を続けている。



◆平成三千年度

インターハイ出場部二覧

- ・柔道部
 - 男子 個人 三階級出場
 - 女子 団体(九年連続)
- ・なぎなた部
 - 個人 四階級出場
- ・男子ハンドボール部
 - (二十年連続四十回目)
- ・女子バレーボール部
 - (八年連続三十二回目)
- ・女子陸上競技部
 - 400m・1000mハードル・4×100mリレー・やり投・七種競技

文化部の活躍

運動部の活躍が目立つが、文化部も活躍の場を広げています。今回はその一部を紹介する。

・書道部

年間約十の展覧会に出品し、



数多くの賞を受賞している。年々、校外での書道パフォーマンスも増え、活躍の場を広げている。本年度は四月にわんぱく公園(壬生町)、五月に「山車まつり」(栃木市)、六月に「はすまつり」(都賀町)でのパフォーマンスを実施し、八月には蔵の町サマーフェスタにも出演予定である。生徒が主体性をもって活動している様子が印象的な部である。

・ミュージカル部

従来校内での活動を主としてきたミュージカル部であるが、二〇一八年十一月十一日に行われたダンスドリル秋季大会(関東予選)を勝ち抜き、二〇一九年一月十九日に行われたダンスドリルウィンターカップ(全国大会)に出場、日頃の練習の成果を発揮してきた。



令和2年度 中学校・高等学校 生徒募集について

中学・高校同時開催

Come on in 国学院 第1回 7月27日(土) 第2回 8月4日(日)
(一日体験学習) 時間/9:00～ 場所/本校キャンパス

高 校

国栃チャレンジ 10月13日(日) 場所/本校キャンパス・学園教育センター(栃木駅前)
(学力診断テスト) 入試の雰囲気を経験しながら、学力到達度を判定します。
【判定】①現在の学力(得点・順位等) ②本校の各コースへの合格可能性
【受験型】5教科型または3教科型選択 【受験料】無料

入試説明・相談会 ① 9月28日(土) ② 10月27日(日) ③ 11月2日(土)
④ 11月17日(日) ⑤ 11月23日(土・祝)
⑥ 12月1日(日) ⑦ 12月7日(土) ⑧ 12月8日(日)
時間/9:30～ ※11月2日(土)のみ14:00～
場所/本校キャンパス ※⑥⑦⑧は学園教育センター(栃木駅前)

入学試験 第1回 1月6日(月) 一般入試(単願・併願)・
推薦入試(単願)
体育技能入試(単願)
第2回 1月7日(火) 一般入試(単願・併願)
第3回 1月25日(土) 一般入試(単願・併願)



未来を拓く FOR YOUR FUTURE

中 学 校

入試説明・相談会 ① 8月24日(土) ② 9月1日(日) ③ 9月28日(土)
④ 10月12日(土) ⑤ 10月27日(日)
時間/10:00～ 場所/本校キャンパス

入学試験 第1回 11月30日(土) 自己推薦入試(単願) 一般入試(単願・併願)
第2回 12月14日(土) 自己推薦入試(単願) 一般入試(単願・併願)
英語入試(単願・併願) 適性検査入試(単願・併願)
第3回 1月19日(日) 自己推薦入試(単願) 一般入試(単願・併願)
場所/学園教育センター

國學院祭	文化祭 9月7日(土)・8日(日)	場所/本校キャンパス
	体育祭 9月21日(土)	場所/本校キャンパス